

第4回 藤沢市都市マスタープラン策定協議会 議事要旨

日 時 2025年（令和7年）7月31日（木） 午前10時00分
場 所 藤沢市役所 本庁舎6階 6-1会議室

1. 開 会

2. 成立宣言

3. 議 事

（1）前回策定協議会の振り返り

（2）藤沢市都市マスタープラン素案について

4. その他

5. 閉 会



事務局	【１ 開会】 【２ 成立宣言】 （会議成立の宣言）
事務局	【３ 議事】 （議事１「前回策定協議会の振り返り」を説明）
会長	○質疑応答 ・来訪者アンケートの結果について、都市マスタープラン改定の中で活かすことを考えていますか。
事務局	→来訪者アンケート結果の「再来訪したい理由」の傾向を踏まえると、市内に点在する地域資源を活用したり、散策環境を充実させたりすることで、再来訪のニーズに応えていけると考えており、これは都市プランで掲げる方針と一致することを確認しています。また、「住んでみたい」と思う方の重視する項目を踏まえ、居住ニーズに応えていくためには藤沢市が持つ良好な住環境を維持していくことが重要になることを確認しました。
会長	・「藤沢市に住んでみたいと思いますか」という設問については、観光目的で来た方はおそらく観光の側面でしか見ないため「住みたいとは思わない」と回答すると考えられ、この設問の回答割合は少しネガティブな方向にバイアスがかかっている気がします。計画改定に直接影響するわけではないと思いますが、回答の見方は注意したほうが良いと思います。
A 委員	・来訪者アンケートについて、回答者の居住地による傾向を把握するためのクロス集計はしていますか。
事務局	→居住地でのクロス集計は行っていないですが、年代別と同様に行うことは可能です。
A 委員	・場合分けを行うとサンプル数が少なくなりますが、居住地でも分析すると良いと思いました。
事務局	（議事２「藤沢市都市マスタープラン素案について」を説明） ○質疑応答 （「都市マスタープランとは」「ビジョン編」についての質疑応答）
B 委員	・「ビジョン編」の最も大事な点の一つが、２３ページの「将来都市構造図」だと思います。現行計画と比べると「緑の拠点が追記されたこと」と「地区拠点が削除されたこと」が変化しています。その他は大きくは変わっていない

事務局	いことから、おそらく「将来の都市構造は大きくは変えない」ということを示していると思うので、大きな構造は変えない一方、細かい市街地の空間はどんどん再整備していくということを端的に示すと良いと思いました。 ・「将来都市構造図」はこのままで良いと思いますが、それに至るまでの「拠点」「交通体系」「自然空間体系」「市街地の構成」の説明がとても細かく、多くが「プラン編」の「都市プラン」で記載されるべきものではないかと思います。これらの細かな情報は「都市プラン」で詳細に記述することにして、「ビジョン編」の「将来都市構造図」とそれに繋がる記載は、シンプルにした方が良いと思います。 →「将来都市構造図」に至るまでの記述の多さにつきましては、大元の考え方ということもあり細かく書いていますが、ご指摘のとおり、「ビジョン編」が大きくて「プラン編」になると小さくなっていく印象があると思いますので、書き方やどこに何を記載すべきか、改めて精査したいと思います。
C委員	・22ページの「市街化調整区域の構成」の「市街化調整区域」の3つ目の項目に逆線引きの記載があります。逆線引きを検討している時点では、市街化区域内にある場所の話であり、災害レットゾーン等を踏まえて、その場所を市街化調整区域にするということなので、「市街地の構成」の中で記載した方が良いと思います。
会長	・「市街地の構成」と「市街化調整区域の構成」という分け方についても、言葉のレベルが違うので気になりました。逆線引きの記載もご指摘の場所にするのが良いと思います。
事務局	→ご指摘のとおり、現時点においては市街化区域の話なので、記載箇所の見直しを行いたいと思います。また、「市街地」と「市街化調整区域」を並べていることについても、ご意見を踏まえて整理したいと思います。
会長	・「市街地の構成」の「住宅地」の3つ目の項目にある「災害リスクがあるエリアにおいては」の流れで「市街化調整区域への逆線引きの可能性がある」と記載すると、自然になると思います。
A委員	・10ページにある「都市ビジョン」の「自立するネットワーク都市」の意図については、わかりやすくなったと思います。 ・「自立するネットワーク都市」の下にある説明文は、現行計画などに書いてある文章なのでしょうか。
事務局	→今回、新しく記載した文章です。
A委員	・気になったのは「地球との共生」という言葉で、「地球共生」であれば大学の学部名などにも使われていますが、内容を読むと基本的には自然共生のことが書いてあるため「自然との共生」等にと良いかと思います。
会長	・「地球との共生」の中には、世界との関わり方の意味も含まれているのでしょうか。
事務局	→これまでの「自立するネットワーク」の考えについては、交通のネットワー

A 委員	ク等に比重を置いていましたが、インターネット等の様々な方法で世界とつながっていけることなどを新しい視点として加えていることや、地球温暖化に対してきちんと取り組んでいくという意図から、「地球」という言葉を使っています。その部分に違和感があるというご意見でしたので、これを踏まえながら考えていきたいと思います。 ・「地球共生」という言葉に「他の国々との共生」まで入るのはわかりませんが、もし「地球」という言葉を使うのであれば「地球共生」と表現した方が良いと思います。
A 委員	・20ページの「自然空間体系」の説明で「自然空間をグリーンインフラと捉えて、その機能をうまく活かしていく」とありましたが、「ビジョン編」で「グリーンインフラ」の言葉はこの1か所しか出てこないのもう少し上で「グリーンインフラ」を説明すると、わかりやすくなると思います。
会長	・「自立するネットワーク都市」の説明の1行目は「魅力と特性がある都市」、2行目は「魅力や個性が高まる都市」となっていますが、「特性」と「個性」の違いはあるのですか。
事務局	→1行目は『外側から見てつながりたくなるような魅力や「特性」をもった都市にしたい』、2行目は『つながっていくことで他の自治体や国の魅力を取り込み、さらに藤沢市の都市の魅力がアップして「個性」が高まっていく』という考えです。外からの見方と、自分たちの感じ方の使い分けをしているということです。
D 委員	・テレワーク等で働きながら職住近接のような暮らしができるため、藤沢市に移住希望をする方がいると聞いています。また、ブレスト会議でも育児などの話題が出ていました。こういった特徴や傾向に対する考え方を説くのであれば、「将来フレーム」に何か文言を入れた方が良いと思いました。 ・「将来フレーム」の人口構造の部分には、現状、年齢構成比しか書いていませんが、どういう層の方が昼と夜にそれぞれ存在しているのかを表現するイメージです。それがないと、ブレスト会議の中であったような「農地付きの住宅がほしい」「まち中で保育したい」といった、暮らしの中でまちの構造が良く活用されていくイメージが浮かばず、「みんなのまちビジョン」の絵にも書き加えるのかかもしれませんが、誰が主役になるのか想像できません。 ・藤沢市は働きながら子育てをしている男性などに力を入れても良いのではないかと考えており、全体を通して、その辺りに言及できていない印象を受けます。「将来フレーム」の人口構造や、就業人口と交流人口の記載にそういった言葉や文章を加えつつ、「プラン編」の「13地区プラン」における住宅地に関する記載などでも表現しないと、ブレスト会議でいただいたご意見が反映しづらいのではないかと思います。

事務局	→職住近接の考え方については、「プラン編」の6つの基本方針のうち「活力を創造する都市づくり」の商業地域における住居のあり方の中に記載してはいますが、「もっと大きな方針の中で視点を持つべき」というご意見として捉えています。 →「将来フレーム」については、人口が増える時期においては「人口フレーム」という概念が重要であったと考えていますが、人口が減少に向かう中でこの考え方が当てはまるのかという議論や、そこにどういうものが入るのかという議論があったところです。そのため、画一化された文言に留まっているところがあるかと思います。 →「みんなのまちビジョン」のイメージの主体が誰なのかわからないという点については、「誰でもまちづくりの主役になれる」という受け止め方ができるような表現にしたいと考えて進めていますが、画一的な年齢構成だけでなく、もう一步踏み込んだことが書けないか、引き続き検討したいと思います。
会長	・「データ編」に「職住近接の住まい方が増えている」「ライフスタイルが多様化している」等を示すデータはあるのでしょうか。
事務局	→「データ編」では、昼間人口や夜間人口、就業者や通学者の人口比率程度までしか載せていない状況なので、関連データの有無を確認したいと思います。
会長	・D委員のご意見に関連する、根拠となるデータはどういったものがあるのでしょうか。
D委員	・都市マスタープランでは見たことはありませんが、例えば、地域福祉計画などには男性の育児休暇の取得率等が入っています。日本でも率が上がってきているので、これを示すことで「平日の昼間に父親と子どもだけでいる時間が長くなって、昔のまちの構造とは全然違ってくるため、その時にまちがどうあるべきか」といった議論ができます。「多様なライフスタイル」に関連して、父親と子どもだけで出かけた際に立ち寄って交流する場が求められることなどが福祉の計画では取り入れられている認識です。すべてを踏襲する必要はありませんが、昔と働き方が変わっていることは確かなので、それを前提にしたまちのフレームを考えるにあたって、関連しそうなものを「データ編」に入れても良いと思います。
会長	・今回の都市マスタープランの改定の目玉に「ひとを中心にする」があるので福祉との関係をしっかり記載するという趣旨だと思います。ご検討ください。
E委員	・19ページの「交通体系」の図の道路名称の表記において「県道45号」など番号にしているものと「藤沢厚木線」「横浜伊勢原線」など名称で表記しているものがありますが、その区別の意図を確認させてください。
事務局	→道路の呼称で表現しています。

E 委員 事務局	・道路の呼称ということですが、例えば「藤沢厚木線」は都市計画道路の名称でもあり、「県道４５号」には「丸子中山茅ヶ崎線」という呼称もあります。 →例えば「国道４６７号」には「藤沢町田線」「鎌倉片瀬藤沢線」という都市計画道路名称がありますが、わかりやすさを考慮する上で、よく使われる名称として「国道４６７号」と表記しているところですが、いただいたご意見を踏まえ、道路の表記について見直しをしたいと思います。
会長	・１２、１３ページの「みんなまちビジョン」の絵は、プレスト会議の資料にも掲載されていましたが、そちらの方が文字情報とセットになって、具体的なものを想起させる絵になっていましたが、計画の素案にある絵の文字情報は４つぐらいのカテゴリーに抽象化されています。絵を細かく見れば色々なイメージが想起されるのかもしれませんが、言葉だけ見ると暮らしのイメージがしづらく感じます。
事務局	→プレスト会議の資料については、意見が活発になるように、絵にある建物や場所のイメージを限定するような書き方でお示ししましたが、今回の「みんなのまちビジョン」の絵については、これを見た人が想起する場のイメージを限定しすぎないようにと考え、調整しています。文章や絵の表現の仕方については、引き続き検討してまいります。
会長	・「みんなのまちビジョン」の絵は、例示のようなものだと思います。読んだ人が「多様な場が沢山ある」ということを具体的に思い浮かべられるようにするのであれば、絵だけではなく文字情報も重要だと思うので、限定はしないにしても、もう少し例示するような、バランスがとれた絵になると良いと思います。
事務局	→このイメージが実際に建つ建物やつくり上げるものとして捉えられることは意図していませんが、「魅力的な場がある」と思い浮かべられるような表現をするために、いただいたご意見は大切なことだと思います。
会長	・この絵を実際の空間と紐づけられてしまう懸念があるという点では、確かに、細かく書いてしまうと誤解を招く恐れもあるので、多様な場のあり方は、空間と切り離して書いた方が良くもしいないと思いました。
F 委員 事務局	・「将来フレーム」について、今の時代に即して考えると「人口」「土地利用」「環境」に続けて「防災」という観点を入れるべきだと思います。都市計画のベースとして、災害ハザードでその土地の資質を表すということです。具体的な目標を明示するのはかなり難しいと思いますが、最低限「現在抱えているリスクを増大させない」といった記述があるべきだと思います。 →いただいたご意見を踏まえ、「将来フレーム」に「防災」の観点を入れるか検討したいと思います。

A 委員	(「プラン編」についての質疑応答) ・「都市プラン」について、全体的に「●」で説明している部分の形容詞や修飾語が多く、非常に文章がわかりにくく感じます。前回のたたき台の際は「●」の説明がもう少し短く、前段の文章の説明が長かったと思いますが、概略を上段で説明し「●」でポイントを説明していたため、バランスが良かったと思います。
事務局	→「都市プラン」の書き方について、ご指摘のとおり「●」の説明で複数のことが一つの文章になっており、よくわからない部分があると思います。冒頭の説明に少し厚みを持たせる点と併せ、改めて精査したいと思います。
A 委員	・方針3「自然と融合する都市づくり」の冒頭で気候変動に関して緩和策を述べていますが、適応策も同時に必要であり、これは防災の観点になると思います。方針4「強さとしなやかさを持つ都市づくり」の全体が適応策ということかもしれませんが、「激甚化・頻発化する災害」という言葉がこの適応策に対応するのか、わかりにくいと思います。 ・気候変動の適応策を考える際には、グリーンインフラの活用などの観点が出てくるため、方針3と方針4を横断するテーマになると思います。記載の仕方も含め、検討いただけたらと思います。
事務局	→1つの要素が複数の方針に渡るような場合、よりわかりにくくなっていると思うので、気候変動への適応策をどう示すかと併せて、改めて横断的に方針を見ながら整理をさせていただきたいと考えています。
B 委員	・「ビジョン編」で申し上げたとおり、「将来都市構造図」に至るまでの細かい記載については、「プラン編」に移すべきだと思います。 ・「都市プラン」には方針1から6と$+\alpha$の方針があり、これらを統合的に土地利用の計画や都市施設の計画に落とし込むのが都市マスタープランだと思いますが、その形がありません。そこで、「13地区プラン」の「共通方針」という部分に「共通方針図」という図がありますが、これが「都市プラン」の最後に結論として入るべき図ではないかと思いました。「地区プラン」の共通方針を「都市プラン」の最後に移し、全体の空間計画として位置付けるのが自然かと思います。
事務局	→「共通方針図」については、若干細かい情報が入っているイメージを持っておりましたが、ご指摘のとおり、方針の表現が弱い部分もありますので、改めて検討したいと思います。
C 委員	・似たような言葉が以降のページにもありますが、30ページの「1) 13地区や生活圏に応じたきめ細かなまちづくり」の下から2番目の「事業完了後の土地利用を踏まえた土地利用規制の検討と導入」という言葉について、事業という言葉が市街地開発事業を指しているのであれば「土地区画整理事

事務局	業完了後の土地利用を踏まえた土地利用規制の導入」ということになります。事業を行う時に規制を行っており、表現がおかしいので、修正した方が良いでしょう。 ・ 39ページの「災害復興に向けた沿岸部の地籍調査の実施」について、地籍調査は沿岸以外でも行う必要があるため、沿岸に限定した記載ではない方が良いでしょう。 ・ 42ページの「4）成熟化した既成市街地の再構築・再魅力化」の上から2つ目の「土地利用の転換時における地区計画などの推進」について、「土地利用転換時における地区計画の活用」ということを言いたいのだと思うので、文章を修正した方が良いでしょう。 ・ 方針5「美しさに満ちた都市づくり」には、事業に関する話も書いてあるので、「無電柱化」というキーワードを入れた方が良いでしょう。 ・ 45ページの方針6「連携と挑戦の都市づくり」の「1）広域的な道路・交通ネットワーク整備と連携・交流の促進」の一番上に「東海道本線と小田急線の輸送力強化」とありますが、「減らされないように」という観点で「維持・輸送力強化」とした方が良いでしょう。 ・ 47ページの「連携と挑戦の都市づくり方針図」の新湘南バイパス、圏央道が戸塚に向かっていますが、途中で方向が曲がっていると思いますので、修正をお願いします。 →文言の修正について、ご意見を精査し、対応します。図の修正についても、併せて行いたいと思います。
G委員	・ 43ページにある「駅周辺における駐車場の必要な量と適正な配置のあり方の検討」も大切ですが、市内の駅における駐輪場についても記載していただきたいと思いました。 ・ 30ページの方針1「住みよさを育む都市づくり」について、「安全・安心に暮らせる環境の形成」などに関わると思いますが、例えば、狭い通学路で子どもたちが大変な状況になっている問題などを「13地区プラン」も含めて少し具体的に記載していただけると、市民目線で見た時に、変わる兆しが見えると思いました。 ・ 藤沢市には園庭がある保育園が少ないため、どこかに保育園のことも記載されていると良いと思いました。
事務局	・ 都市マスタープランについては、具体的に一つ一つ書くというより、方針的な記載になるかと思いますが、市民の方の目線で「こんなまちになるのだろう」という期待が持てるような表現を検討したいと思います。
D委員 事務局	・ 「地区拠点」の中心は市民センターという理解で正しいでしょうか。 →「地区拠点」については、駅や市民センター等の利便性の良いところとしており、市民センターは必ず配置されている形になっています。
D委員	・ 31ページの「住みよさを育む都市づくり方針図」の凡例で、二重丸で示す

事務局	市民センターが、オレンジの点線で示す「地区拠点」に入っているという理解ですね。 ・関連して、30ページの「2）身近な暮らしや移動を支えるサービスの維持・充実」の1つ目に「地区拠点周辺における生活サービスや公共交通の維持・充実」とあります。市民センターだけではフォローできない暮らしや生活圏が存在しますが、この書き方では「地区拠点」の周辺に特化していると読み取れてしまうので、「地区拠点」をハブに各地区において民地や空き家を使いながら、市民の創発で場をつくることをフォローし、それが都市づくり、地区づくりの中で認識されていくような書き方が欲しいと思います。 →「地区拠点」をハブに「身近な拠点」があるという考え方を、17ページの「将来都市構造」の「拠点」の部分で定義しています。図に位置を落とす想定ではありませんが、主体を市に限定せずに「身近な拠点」となり得るものが創発的にできることを促進するトーンで記載しています。
D 委員	・17ページの「身近な拠点」の記載は良いと思います。市民がそういう場を創発したい時に応援するという建付けとするため、こういったことを方針1の「住みよさを育む都市づくり」の中に書くと良いと思いました。
D 委員	・「13地区プラン」の図の凡例に「子ども食堂」の凡例がありますが、この図に点で落とし込むほど、藤沢市において制度設計的に上位となっているのでしょうか。それよりも、幼稚園や保育園の方が前に出るべきだと感じます。もしくは、子育て支援センターのような施設の方が、子育ての相談や親子間の仲間づくりなどの場であると思います。「子ども食堂」を載せてはいけないという訳ではありませんが、少し特殊に見えたので、凡例に入れる施設の整理をした方が良いと思いました。
事務局	→「子ども食堂」や「いきいきサポートセンター」など、医療や福祉の拠点として落とし込んでいますが、その強弱を含め、引き続き整理をしたいと思います。
D 委員	・少し丸めすぎている部分と各論すぎる部分があるので、そのバランスについても精査をお願いします。
A 委員	・「地区資源マップ」にある「災害警戒ゾーン」の「水害」の凡例には、津波も含まれるのでしょうか。
事務局	→津波も含んでいます。
A 委員	・この凡例だと「水害」に津波が含まれることがわからないと思いました。また、現行計画と比べると、津波に対する記述が激減しているように思います。2011年の震災から時間が経ったとはいえ、昨日の津波警報のようなことがあると、また注目度が上がると思うので、津波の位置付けについて検討いただきたいと思います。
事務局	→津波の記述については、現行計画で13地区の各地区に記載があったもの

	を「１３地区プラン」の「共通方針」の防災の括りでまとめて記述しております。重複を避けたことで「都市プラン」での記載が弱く感じると思いますが、ご指摘のとおり、見せ方や表現の仕方を検討したいと考えています。
A 委員	・「データ編」に各地区の人口の変化が掲載されていて、地区ごとの違いが顕著に出ていると思います。各地区の人口の問題は「１３地区プラン」で記述されていますが、地区ごとの凸凹を変えるため、都市マスタープラン全体で何か記載はしないのでしょうか。
事務局	→地区ごとの人口動態の変化が顕著になってきていることに対し、個々の地区で人口を増やす、維持するという取組をどう考えるかについては、地区の特性に応じたきめ細かな住みやすさを守る取組を進めた結果、人口がついてくるという方向性で考えたいと思っています。大きな都市計画の変更は行いませんが、住みよさを育む方針を強化することで対応する考えです。
会長	・都市拠点のうち、湘南台には文化センターと中央図書館があり、文化に関する機能を持っています。また、藤沢駅周辺には市民会館の建替えをしているゾーンがあると思います。３１ページの方針２「活力を創造する都市づくり」において、湘南台はこのことが伝わるように書いてあるのですが、藤沢駅周辺は「藤沢駅周辺に残される歴史・文化の継承とその活用」としか記載がありません。「新たな価値の創出につながる積極的なまちづくりの推進」という文章も何を指しているのかわかりにくいので、その精査も含め、市民会館周辺の整備の位置づけを記載した方が良いと思います。市民会館周辺は、藤沢の活力を創り出す大事な拠点になると思います。 ・図書館については、居場所としてとても大事だと思っていますが、文化施設の中に含まれて、一括で書いてある気がします。中央図書館や各地区の図書館について、もう少しフィーチャーしても良いと思います。図書館自体は「地区資源マップ」にも落ちています、単独の凡例ではありません。高齢者の居場所としても、高校生の居場所としても、実際に使われており、記載が必要だと思います。藤沢市の考え方としても、中央図書館周辺は今後の大きな都市課題の一つとして色々と考えられると思うので、そういう点にリンクするような都市マスタープランである方が良いと思いました。 (「プロセス編」「データ編」についての質疑応答)
B 委員	・「プロセス編」の最初に「まちとつながる」「まちを使う」「まちを磨く」とあり、この方向性は良いと思いますが、「まちを磨く」の主な取組に、かなり重い事業や取組が書いてあり、アンバランスだと感じました。「まちを使う」の中にもっと内容が入ってくるのではないかと思います。主な取組はいずれも都市計画系の取組なので、どの取組においても「まちを使う」や「まちとつながる」という観点を大事にして、市民参加を十分に行いながら

事務局	進めるということではないでしょうか。したがって、これらの取組を「まちを磨く」にぶら下げて行政だけで行うように見られるより、「つながる」「使う」「磨く」ということがより具体的に示され、どの取組においてもこのプロセスが大事だと強調する構成が良いと思います。
会長	→「まちを磨く」の部分には、都市構造を形成する大きな事業として、市の根幹となるプロジェクトを推進することを位置づけています。ご指摘のとおり、これらの事業を進める過程で「つながる」「使う」「磨く」の全てが関るという構成について考える必要があると思いますので、引き続き検討いたします。
C委員	・現行計画にも主要プロジェクトの記述はあり、そこに「つながる」「使う」が加わりましたが、行政が進めるものも、そういった観点でしっかり話をしようということだと思います。 ・「まちとつながる」「まちを使う」については理念がしっかりとしている印象ですが、「まちを磨く」には個別プロジェクトについてだけが書かれており、わかりづらく感じました。場合によっては、間違ったメッセージになってしまうのではないかと感じます。全てのプロジェクトがつながって、使って、磨かれるということだと思うので、プロジェクトは別に記載して、理念は理念でまとめた方が良いと思いました。 ・マネジメントについては「まちとつながる」の中に入っていますが、「まちを磨く」にしっかりと書いた方が良いと思います。市民の皆様や行政がしっかりと磨き続けるからこそ光るのであって、「まちを磨く」にはエリアマネジメントや「まちを育てる」のような考え方を取り入れ、市民の皆様もそこに愛着を持ってシビックプライドが生まれるような書き方をすると良いと思います。
事務局	→プロセス編の構成について、引き続き検討をいたします。
D委員	・112ページの「まちを使う」にある「効果的・効率的な都市の活用」という文言について、活用に効率を求めるのかと、少し疑問に思います。 ・「使うことを見据えてつくる」というのは「使う人と共につくる」ことだと思います。 ・110ページに「子どもを対象にしたまちづくり学習等を充実します」という文言について、「子どもにまちづくり学習をさせます」というようなニュアンスではなく「子どもと一緒にまちづくりに参加していくことで、将来、自然と担い手になっていく」というような表現にしていきたいと思います。子どもについても「まちとつながって、まちで子どもを育てることが、まちとともに子どもが育っていくことだ」というようなニュアンスで検討していただくと良いと思います。今の記載では、担い手を押し付けている印象を受けます。 ・ブレスト会議の意見をビジョンへ反映する検討の中で、市民農園などがま

	ちの中で実現している様子というのは、まさに「まちを使う」アイデアだと思います。「そこに関わりたいからまちに参与して行って、このまちで生きていこうと思う」というようなメッセージが読み取れました。一方、１１２ページの「まちを使う」の部分は、ハード寄りの記載になっているので、使う側から見て楽しみに思うようなことが書いてあると良いと思います。その上で、１１３ページのプロジェクトなどがうまく連動して、「プロセス編」で市民の方々の関わり方のアイデアが引き出される構成にしていきたいと思います。
A 委員	・ １１３ページの「まちを磨く」の「３）持続可能な都市を支える自然環境と都市基盤のアップデート」にある「自然環境のアップデート」という言葉に違和感があります。「ネイチャーポジティブ」という言葉が使われるようになっているので、そういった表現の方が良いと思います。 ・ 「データ編」の１１９ページにあるように、入込み観光客数が２，０００万人を超え、最大を更新したということ等をどう捉えるのか、前段の「ビジョン編」や「都市プラン」に記載されていないと思いました。一方、「１３地区プラン」には観光に関する記載が多く「観光地として課題がある一方でまだまだ観光を伸ばしていきたい」というような記載のある地区や、「観光を誘導したい」というような記載がある地区もありました。より観光客を増やしていく方向なのか、各地域に分散するよう誘導するのか、そういったスタンスを前段に提示した方が良いと思いました。 ・ 「データ編」の１２５ページにある自然環境のデータについて、面積の推移で示されていますが、分野別計画の緑の基本計画のように緑被率をデータとして掲載し、その変化を示す方が適切ではないかと思いました。 ・ 観光についての考え方は、観光客数ではなく、どういう観光を求めているのかが大事な問題なので、どこかで触れてほしいと思います。
会長	
事務局	【４．その他】 ・ 次回会議は２０２５年（令和７年）１０月２１日（火）の午前中を予定 【５．閉会】 以 上